

設問1

体幹・骨盤帯の安定化を担うインナーユニットを構成している筋のうち、誤っているのはどれか、1つ選べ。

A1	横隔膜
A2	腹直筋
A3	多裂筋
A4	腹横筋
A5	骨盤底筋群

正解 A2

インナーユニットを構成しているのは、横隔膜、多裂筋、腹横筋、骨盤底筋群の4筋であり腹腔内圧をコントロールし、体幹・骨盤帯の安定化に作用している。

設問2

エストロゲンの働きについて、誤っているのはどれか、1つ選べ。

A1	月経周期において周期的な分泌が生じる。
A2	エストロゲンには骨形成を抑制する作用がある。
A3	エストロゲンには靱帯を弛緩させる作用がある。
A4	閉経を迎えるとエストロゲンの急激な減少により骨粗鬆症のリスクが増加する。
A5	月経異常と栄養状態には関連がある。

正解 A2

エストロゲンには骨吸収を抑制する作用がある。

設問3

働く女性の健康について、誤っているものはどれか、1つ選べ。

A1	女性特有の健康課題やライフイベントに起因した望まない離職を防ぐことは大切である。
A2	健康経営銘柄選定基準に「女性の健康・保持」に関する項目が設定されている。
A3	女性特有の健康課題による労働損失等の経済損失の推計は30億円である。
A4	月経痛の重さは非就労女性に対し、就労女性で多くみられる。
A5	更年期症状が原因で雇用劣化が起きることがある。

正解 A3

女性特有の健康課題による労働損失等の経済損失の推計は3.4兆円である。(経済産業省)

設問4

女性における骨粗鬆症について、正しいのはどれか、1つ選べ。

A1	骨量は50歳で最大となる。
A2	女性は男性よりも転倒頻度が低い。
A3	閉経後に急激に骨量の低下が起きる。
A4	大腿骨近位部骨折は前期高齢女性に多く発生する。
A5	女性の骨折のほとんどは交通事故である。

正解 A3

20歳前後で最大骨量を迎える。女性は男性よりも転倒頻度が高く、骨折の主要因になっている。大腿骨近位部骨折の発生数も女性の方が高く後期高齢者に多い。

設問5

思春期における月経の問題について、誤っているのはどれか、1つ選べ。

A1	原発性月経困難症
A2	続発性月経困難症
A3	月経前症候群
A4	無月経
A5	初経未発生(初経が来ていない)

正解 A2

続発性月経困難症は、器質的疾患(子宮内膜症や子宮筋腫など)がある場合をさし、20代後半以降にみられる。

設問6

骨盤底筋群の機能として正しいのはどれか、1つ選べ。

A1	腹腔内臓器を支持する
A2	排尿筋の収縮を促す
A3	尿の生成に寄与する
A4	直腸の蠕動運動を促進する
A5	骨盤内臓器を支持する

正解 A5

骨盤底筋群の最も重要な機能には、骨盤内臓器(膀胱・子宮・直腸)の支持機能がある。